

大阪都 3つの関門

年明けに調査会 政府様子見ムードも

大阪府知事・大阪市長ダブル選で地域政党・大阪維新の会が圧勝したことを受け、同会代表の橋下徹・新大阪市長は今後、「大阪都構想」の実現を政府や与野党に迫る考えだ。だが、構想実現には、府市議会での都構想賛成の決議など、越えなければいけない「三つのハードル」が待ち受ける。政府は、都構想を中長期の課題として検討する構えだ。〈関連記事4面〉

決議可決 住民投票 自治法改正

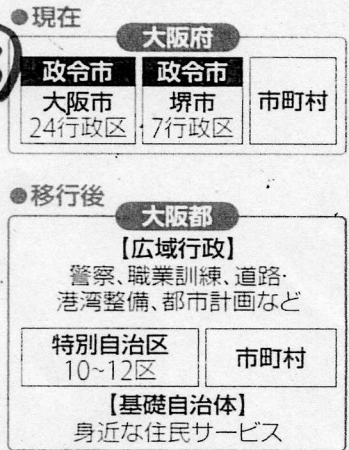
藤村官房長官は28日の記者会見で、大阪都構想について、「(大阪での)動きを引き続き注視していく」と述べた。

都構想は府と大阪・堺両市を廃し、「都」と人口30万人程度の「特別自治区」に再編するものだ。道路・港湾などの基盤整備などをめぐる府と市の二重行政を解消し、都が広域行政、特別自治区が窓口業務や福祉など住民に身近なサービスを担当することで、行政効率化につながる狙いがある。

だが、構想実現にはハードルが続く。

①大阪府と大阪・堺両市の再編には、まず府議会と両市議会での決議の可決が関連条例を成立させることが欠かせない。しかし、両市議会では維新の会は過半数に満たず、決議可決や条例成立

「大阪都構想」のイメージ



春秋

日経・朝日・読売
よみくらベサイト

新 あらたにす

万葉集の歌の分類のひとつに「譬喩歌」というのがある。心情をおもてには出さず、別のものにたとえて表現した歌だ。「ぬばたまのその夜の梅をた忘れて折らず来にけり思ひしものを」。梅とはもちろん、思いを寄せる相手のことだ。

▼いにしえの頃から、そんな比喩に親しんできた

日本人である。いまもたとえ話が大好きなのは、万葉のDNAのせいかもしれない。もっとも、何を何にたとえるか――。

この組み合わせが思案のしどころで、しつじるとはなはだ見苦しいことになる。かねて心中にあることが比喩でポロリとこぼれ出てしまうのだ。

▼沖縄県知事を「コメントするだけで口がけがれる」と憤らせた防衛省の官僚は、たとえ話のそういう怖さを知らなかったのだろう。米軍基地の移設問題を、女性への陵辱行為にたとえた一件だ。

この人は、いや、ほかの役人も、ふだんから沖縄のことをそんなふうに考えている、と思われたとしても仕方あるまい。

▼オフレコが前提の発言を、地元紙があえて報じて表面化した問題だ。メディアとしていかなものかという疑問は残るけれど、これほどの妄言を放つ人は、いずれ大きな過ちに足をとられたかもしれない。お仲間を集めて学び直してみたらどうだろう。万葉の美しいたとえ歌を、人倫を、沖縄の歴史を。

(11・12・2)

題とみられるのが、地方自治法の改正だ。ただ維新の会は国会に議席を持たず、法案提出のめどは立っていない。橋下氏は今後、政府や与野党に法改正への働きかけを強めるとみられる。

一方、政府側は、首相の諮問機関である地方制度調査会を、年明け以降、政令指定都市など大都市制度の在り方の議論を開始する予定で、大阪都構想も旭上りに上りそう。調査会の西尾勝会長は28日、総務省内で記者団に、都構想について「(調査会で)議論される」と思っている」と述べた。

ただ、政府内では、様子見ムードも漂う。藤村氏は記者会見で、協議には応じる姿勢を示す一方、「まずは大阪の中で協議が必要だ」と注文を付けた。